

【令和8年度インターンシップ受入テーマ】

知識科学、情報科学、マテリアルサイエンス（化学、生物、機械、電気、情報、建築・建設系）の順に掲載しています。

知識科学 インターンシップ受入テーマ一覧

研究領域	教員	受入テーマ	受入人数	受入期間	備考
AI知性	西村 拓一	身体動作に関する熟練者の暗黙知構築	1名程度	2週間	
		構造化知識による生成AIの信頼性向上	1名程度		
AI知性	宮田 一乘	エンタテインメントシステム、メディアアート	2名程度	2週間～1ヶ月	
AI知性	謝 浩然	生成系AI, 人間拡張	1-2名程度	2週間～1ヶ月	
社会システムマネジメント	郷右近 英臣	自然災害に関する空間情報分析	1-2名程度	2週間～1ヶ月	衛星画像データや人流データを分析する技術の基礎知識 (GISや機械学習など) が身に付く。 問題を繰り返し発生させる社会構造上の根源的な課題を推定する思考技法の基礎知識が身に付く。
		システム思考による社会問題構造分析			
社会システムマネジメント	LAM Chi Yung	Study of socio-economic mitigation methods for disaster risk reduction	1-2名程度	2週間～1ヶ月	
		Study of NATECH events to support risk assessment	1-2名程度		
データ社会メディア	池田 満	視線データを用いた思考プロセスの分析	2名程度	1～2週間	
		e-Learningと教室学習をつなぐメンタリング手法に関する研究	2名程度		
		高齢者による高齢者のための安心・安全マップ作成支援システムの評価	2名程度		
データ社会メディア	橋本 敬	言語進化・共創的コミュニケーションの実験あるいはシミュレーション	1-2名程度	2週間～1ヶ月	
		ヒューマン・ロボット・インタラクションの実験			
データ社会メディア	林 幸雄	複雑ネットワークに関する研究	1-2名程度	2週間～1ヶ月	Python言語を使う
		種々のネットワークにおける単純ループの計数法	1-2名程度		同上
		災害や攻撃に対する迂回路の定量評価	1-2名程度		同上
データ社会メディア	由井蘭 隆也	創造性支援システムの調査研究または開発	1-2名程度	1～2週間	
		計算機支援協同作業やソーシャルコンピューティングに関する調査研究	1-2名程度		
データ社会メディア	佐藤 俊樹	VR/AR・プロジェクションマッピング・画像処理技術等のエンタメ応用等に関する課題制作(個人制作・グループ制作)	1-4名程度	2週間～1か月	
		プログラミング・電子工作技術入門とインタラクティブシステム試作開発	1-4名程度	2週間～1か月	
データ社会メディア	中分 遥	大規模言語モデル(生成AI)を参加者とした心理学調査	1名程度	2週間～1ヶ月	店舗・ブランド・歴史等の深い知識
		非主流派ファッションの計量分析			
データ社会メディア	吉岡 秀和	日本人と約りの関係性の数理的的研究	1名程度	1-2週間	
		様々な環境データに対する数理・データ科学的研究	1名程度		

情報科学 インターンシップ受入テーマ一覧

教 員	受入テーマ	概 要
-----	-------	-----

AI知性研究領域

本郷 研太	AI仮想分子シミュレーション	AI(人工知能)技術が「発掘」した未知の仮想分子。その分子特性を、JAISTスパコンを用いた大規模シミュレーションによって、世界で初めて解明します。
	編入学試験に役立つ工学系数学物理特講	既習者・消化不良者を想定対象に、工学・物理分野での必要最低限の基礎数理を丁寧に学ぶ講義を提供します。
	スパコンを用いた数値シミュレーション	本学所有のスパコン群を用いた電子状態シミュレーションの一連を学びます。テキスト「動かして理解する第一原理電子状態計算」(第二版) 単行本: 208ページ、森北出版

コンピューティング科学研究領域

廣川 直	計算モデル	関数型言語を用い関数型言語のインタープリタを実装する。
----------------------	-------	-----------------------------

次世代デジタル社会基盤研究領域

丹 康雄	ホームネットワークサービスとサービスプラットフォームに関する研究	エネルギーマネジメントやセキュリティ、オーディオビジュアル、ヘルスケアなど、各種のホームネットワークサービスと、これを実現するためのサービスプラットフォームなどについて検討する。システム開発やプログラミング能力を必要とするため、事前相談が必要である。
石井 大輔	制約プログラミングと求解処理	制約言語を用いて応用問題を記述し、探索に基づく制約ソルバーを用いて問題を解く。正しく簡潔に問題を記述する方法や、効率よく解くための方法を検討する。

人間情報学研究領域

池田 心 ※事前にメールで要相談	LLMを用いた“キャラクターらしい拳動”の強化学習	RPGのさまざまなシーンでそのキャラクタの設定にふさわしい行動を取らせるために、LLMと強化学習を用いる。
	囲碁の面白い問題の自動生成	意外な手が正解になり、かつ正解を見れば納得性が高いような、囲碁の練習問題を、AIを用いて自動生成する。
	パズルの面白いインスタンス(問題)生成	シンプルなパズルゲームを一つ選択し、そのソルバを作成し、さらに、プレイして面白いような問題を生成する。
鷗木 祐史	ディープフェイク音声攻撃を防御するための聴覚メディア信号処理の研究	本研究では情報改ざんやなりすましといったディープフェイク攻撃に対する聴覚メディア信号処理の実現について検討する。
	音質評価指標を利用した音の快・不快知覚の研究	本研究では、音色に関わる客観評価指標を利用して音の快・不快の知覚メカニズムについて検討する。
	音の質感認識メカニズム(異常音検知)の研究	本研究では、音の深奥質感として、機械音から異常状態を推測する際の質感認識メカニズムについて検討する。
	骨導提示音声の音声了解度改善の研究	本研究では、骨導提示用デバイスを利用した音声の了解度改善法について検討する。
長谷川 忍 ※2名まで	LODによる概念関係の抽出に関する研究	本研究では、Linked Open Data (LOD)を利用してセキュリティに関する概念の階層化を自動で行う手法の調査や開発を行う。
	コンパニオンロボットによる学習支援に関する研究	本研究では、学習者とインタラクションを行い学習活動を支援するコンパニオンロボットに関するプログラミングを中心に行う。
	講義アーカイブに対する編集・視聴アプリケーションに関する研究	本研究では、対面講義を収録した講義アーカイブの自動編集や視聴記録のためのアプリケーションの調査や開発を行う。
吉高 淳夫	オンライン議論における合意形成・促進支援に関する研究	本研究では、オンラインにおける議論を促進するための手法の調査やエージェントの設計や開発を行う。
	映像プログラム解析基礎	ニュース映像、スポーツ映像、映画映像などの内容解析の基本となるいくつかの処理について学び、動画解析に関する理解を深める。
	視線検出装置によるユーザ興味の検出と応用	視線検出装置の基本的使用法を学ぶとともに、視線データの解析を通してユーザの興味対象や興味の程度を認識する手法について学ぶ。または、視線情報をユーザインタフェースへ応用する方法について学ぶ。

1. シリコン太陽電池の作製と評価



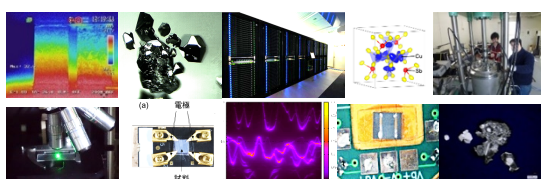
大平圭介 教授



シリコンウェハーから、結晶シリコン太陽電池を作製する工程を体験します。そして、作製した太陽電池の発電特性の測定、解析も実際に行うことで、自然エネルギー利用の面で注目されている、太陽光発電に関する理解を深めることを目的とします。

(受入人数: 2名程度、受入期間: 1~2週間、期間については事前にご相談下さい。)

2. レーザー光を用いた固体材料の分析評価 ~ ラマン分光法の原理と実験 ~



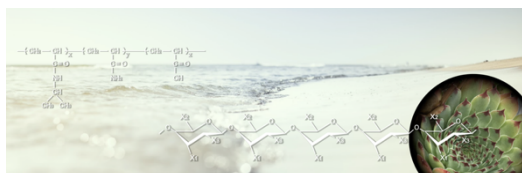
小矢野幹夫 教授



レーザーラマン分光法は、分子結合の振動や固体中の素励起のエネルギーを観測する有力な手法です。この体験入学では、ラマン散乱の原理について学習した後、代表的な半導体であるシリコンや高い硬度を持つダイヤモンドなど固体結晶の格子振動の性質を実際に測定・評価します。レーザー光を使った測定手法を体験してみましょう。

(受入人数: 2名程度、受入期間: 1週間程度、期間については事前にご相談下さい。)

3. 生体模倣材料の設計



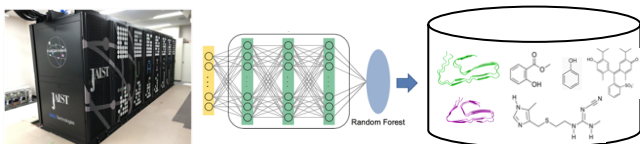
桶霞興資 准教授



本研究室では、組織化する高分子の世界に挑戦しています。気液界面や固液界面で生体高分子や機能性高分子が外的環境変化に対してどう振る舞うのか、体積変化するゲルがどのように構造変化するのか、光学観察とデータ解析を行います。医療・環境・工業など幅広い分野で有望視されているソフトマテリアルを題材として、界面を利用した材料設計技術について学びます。

(受入人数: 2名以内、受入期間: 1~2週間、期間については事前にご相談下さい。)

4. ①AI仮想分子シミュレーション ②編入学試験に役立つ工学系数学物理特講 ③スパコンを用いた数値シミュレーション



本郷研太 准教授



①AI(人工知能)技術が「発掘」した未知の仮想分子。その分子特性を、JAIST スパコンを用いた大規模シミュレーションによって、世界で初めて解明します。②既習者・消化不良者を想定対象に、工学・物理分野での必要最低限の基礎数理を丁寧に学ぶ講義を提供します。③本学所有のスパコン群を用いた電子状態シミュレーションの一連を学びます。テキスト「動かして理解する第一原理電子状態計算(第二版)」(森北出版)

(受入人数: ①2名程度、②5名程度、③2名程度、受入期間: 1~2週間、期間については事前にご相談下さい。)

5. 難疾患治療のための緑茶カテキンナノ粒子・ドラッグデリバリーシステム



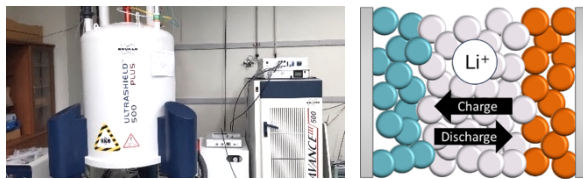
栗澤元一 教授



薬物内包緑茶カテキンナノ粒子を合成し、がんなどの難疾患治療にどのようにナノ粒子・ドラッグデリバリーシステムが効果的であるかを学びます。

(受入人数: 2名程度、受入期間: 1週間程度)

6. 資源問題を解決する次世代の二次電池の作製



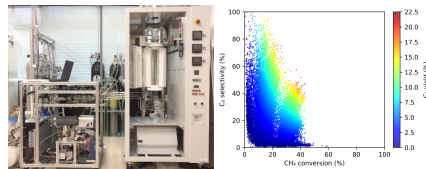
後藤和馬 教授



リチウムやコバルトなどの希少金属を使わない次世代電池であるナトリウムイオン電池を作製し、その諸特性を学びます。

(受入人数: 2名程度、受入期間: 1週間程度)

7. 機械学習を用いた物質ビッグデータの可視化



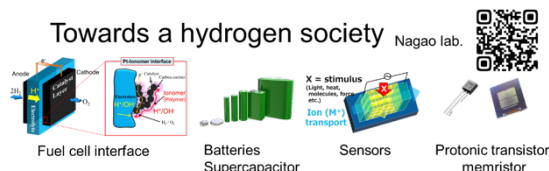
谷池俊明 教授



研究室が保有する物質ビッグデータを対象に機械学習とマテリアルズインフォマティクスを体験する。

(受入人数: 3名、受入期間: 2~3週間)

8. ①燃料電池、蓄電池、②触覚センサ、③イオンスイッチの材料研究



長尾祐樹 教授
青木健太郎 助教



以下の3つの中から選択する。

- ①水素社会に関連する燃料電池、蓄電池の基本を学んだ後、エネルギー関連材料研究の実験を実施する。
- ②ロボットに実装可能な触覚センサ材料について学んだ後、実際に高分子合成実験を実施し、触覚センサ材料の研究を行う。
- ③イオンの流れを光や電場等の外部刺激を用いて制御する材料研究を実施する。

(受入人数: 1-2名、受入期間: 1~3週間程度応談、期間については事前にご相談下さい。)

9. エネルギーデバイス向け有機材料の合成と評価



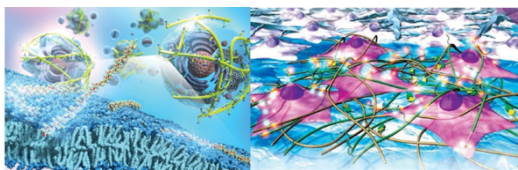
松見紀佳 教授



リチウムイオン 2 次電池向けの高分子ゲル電解質を合成し、イオン伝導特性を始めとする諸特性を評価する。また、色素増感太陽電池用色素増感剤の合成やセル作製、特性評価を行う。

(受入人数: 2 名以内、受入期間: 1 週間以内)

10. 高分子化合物を用いたバイオマテリアルの設計と細胞との相互作用



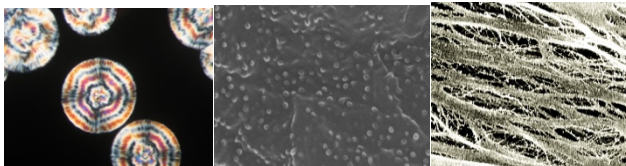
松村和明 教授



生体適合性材料や再生医療用材料に応用可能な高分子材料を作成し、バイオマテリアルに対する理解を深めてもらいます。具体的には生体親和性高分子ゲルの作成、電解質高分子の合成とその細胞との相互作用などについて実験を行っていただきます。

(受入人数: 2 名程度、受入期間: 1~2 週間)

11. ソフトマテリアルのレオロジー解析



山口政之 教授

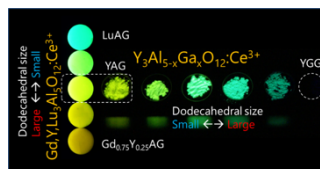


繊維、ゴム、プラスチック、塗料、ゲルなどの高分子材料や、その他のソフトマテリアルや液体が示す力学特性をレオロジーという手法で解析します。高専の研究テーマで用いている試料の評価も可能です。

(受入人数: 3 名まで、受入期間: 1 週間~1 ヶ月程度、期間と時期については応談)

12. ①レーザー励起白色光源用蛍光体セラミックスの作製

②光エネルギーを蓄える長残光セラミックスの作製



上田純平 准教授



①白色 LED は白色光源として広く使用されているが、励起源を青色レーザーにしたレーザー励起高出力白色光源が近年開発・実用化されています。この白色光源に使用される青色レーザーの光を可視光に変換するセラミック蛍光体の作製と光物性評価を行います。

②長残光蛍光体は、励起光を遮断後も光続ける材料であり、夜光塗料として広く使用されています。本研究では、透明で、長時間光続ける透光性セラミックの作製と光物性評価を行います。

(受入人数: 2 名程度、受入期間: 1 週間程度)

13. 移動ロボットとLiDARセンサを用いた環境地図生成



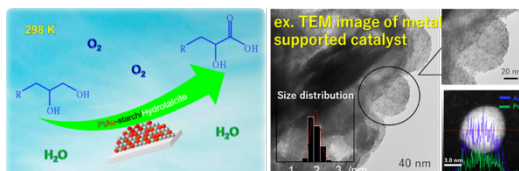
池勇勳 准教授



計測点までの距離と反射強度情報が得られる LiDAR センサを移動ロボットに装着し、環境 地図を生成する原理について学びます。

(受入人数: 2名以内、受入期間: 1 週間程度)

14. バイオマス資源の有効利用を目指した固体触媒反応とその評価



西村俊 准教授

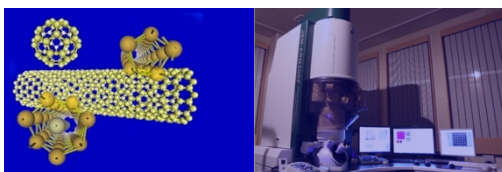


バイオマスは再生可能で使用に伴う大気中 CO₂ 濃度の増加が少ない(カーボンニュートラルな)資源であり、環境負荷を低減した資源利用プロセスの構築に貢献できます。受け入れ期間の中で、実際に固体触媒を調製し、バイオマス変換反応へ適用した際の反応性評価や触媒の物性解析を行います。

希望に応じて、先端機器を用いた触媒材料の分析と評価にも挑戦して頂きます。

(受入人数: 2名程度、受入期間: 2 週間程度、期間・人数については事前にご相談ください。)

15. 結晶の原子直視観察



大島義文 教授



透過型電子顕微鏡を用いて結晶を構成する原子を直接観察するとともに、どうして原子が見えるのか、そして、原子の配列が見えることで何が分かるのか について学ぶ。

(受入人数: 2名以内、受入期間: 2 週間)

16. 化合物半導体電子デバイスの周波数領域計測



鈴木寿一 教授

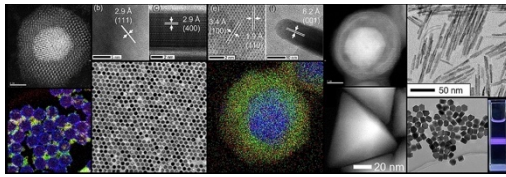


化合物半導体電子デバイスについて、低周波から高周波にわたる周波数領域計測を行います。これにより、デバイス内電子の動的挙動に関する知見を得ることができます。

(受入人数: 2名以内、受入期間: 1~2 週間)

17. ①磁性体ナノ粒子の合成と構造解析および物性評価

②ナノ構造熱電材料の作製と熱電特性評価



前之園信也 教授



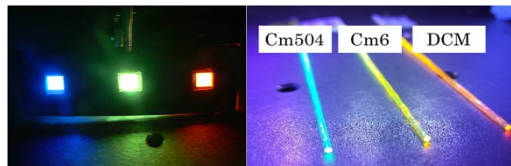
①バイオ医療分野での応用が広く期待されている超常磁性体ナノ粒子を化学合成し、その構造と磁気物性を先端機器を用いて評価していただきます。

②熱エネルギーを電気エネルギーに変換可能な熱電材料のナノ粒子を化学合成し、それらを焼結し、その焼結体の構造解析と熱電特性の評価をしていただきます。

(受入人数: 3名、受入期間: 1週間 応相談)

18. ①新型昇華精製装置の開発

②可視光無線通信用光アンテナの評価



村田英幸 教授



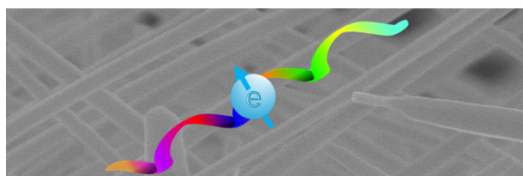
①有機 EL 素子などの有機デバイスの作製には極めて高純度の有機材料が用いられます。本研究では超高純度の有機材料を得るための新しい昇華精製装置を開発します。

②可視光を使った無線通信用の最先端の光アンテナを実際に作製し、データ伝送特性を測定し評価します。情報通信系の方にも適した内容です。

材料系に限らず情報系、機械系の方も大歓迎です。

(受入人数: 2名、受入期間: 1週間~3か月、実施期間と時期については相談にのります。)

19. 半導体試料のホール効果測定



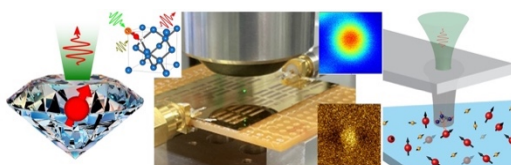
赤堀誠志 准教授



半導体試料のホール効果について、電流依存性・磁場依存性・温度依存性を測定し、物性評価の基礎を学びます。お持ちの試料を測定することも可能です。事前にご相談ください。

(受入人数: 2名以内、受入期間: 1週間程度)

20. ダイヤモンド量子センサを用いた計測・イメージング



安東秀 准教授



ダイヤモンド中の NV 中心と呼ばれる量子固体センサを用い、マイクロ波と磁場を制御して、磁場、スピン(NMR、MRI)、温度等を計測・イメージングします。これより量子スピン計測について学びます。興味があれば自分でプログラムを組んで計測してもらいます。スピンや計測・制御に興味があれば、物理、化学、バイオ等分野は問いません。

(受入人数: 2名以内、受入期間: 1~2週間)

21. 銀ナノ粒子の合成と単一分子超高感度ラマン分光分析



山本裕子 准教授

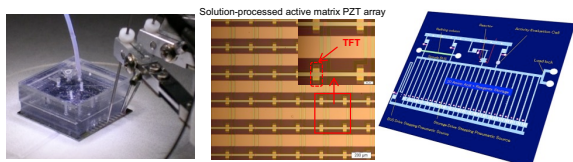


各種ナノテクノロジー応用に欠かせないナノ材料の一つ、銀ナノ粒子を自分で合成し、光を使った各種の分析方法で詳しく観察・測定していきます。特に、蛍光分子と呼ばれる特殊な分子を使いながら、たった一つでも分子をその場検出できるユニークな手法、単一分子超高感度ラマン分光分析(SERS)を体験します。レーザー光や光学顕微鏡を使う実験なので、物理化学や光分析に興味のある方にお勧めです。さらに深く詳しく学びたい方には、学習コンテンツを増やしたり、期間の延長も可能です。事前にご相談ください。

(受入人数: 4名以内、受入期間: 1週間程度、応相談)

22. ①微小流体チップによる高機能バイオ・環境センシング

②酸化物FETによる生体分子解析



高村禪 教授

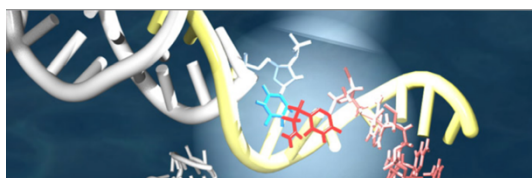


当研究室では、小さなチップ上に流路や反応容器、センサーを作りこみ、環境水やバイオサンプルの分析を行う研究を行っています。インターンシップでは、簡単なデバイス設計し、その特性を評価します。

本研究室は、様々な分野の融合領域ですので、バイオ系、物理系、機械系、化学系、電気系など様々な分野の方を歓迎します。

(受入人数: 1-2名程度、受入期間: 1週間程度、長期のインターンシップを希望する場合は応相談)

23. 光に応答する人工DNAの合成とそれを用いた光DNA操作



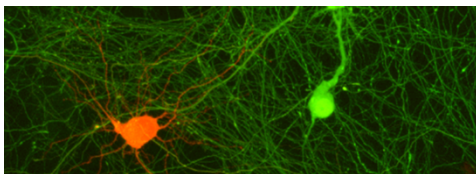
藤本健造 教授



本研究室では、これまでの酵素を用いた遺伝子操作とは全く異なる、光を用いて DNA をつないだり切ったりする遺伝子の操作法の開発に取り組んでいます。体験入学では、そのための光に応答する人工DNAを調製し、その反応特性を解析(遺伝子解析等)する事で実際に光DNA操作を体験していただきます。

(受入人数: 1名、受入期間: 1週間、期間については事前にご相談下さい。)

24. ①細胞の電気活動を読みとる ②細胞蛍光イメージング



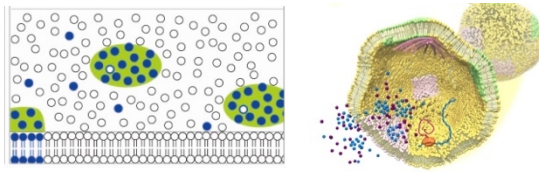
筒井秀和 准教授



細胞は小さな電気素子でもあることを知っていますか?研究室では細胞の電気活動を読み取るための研究を行っています。そんな研究に加わって一緒に試行錯誤するのがテーマ1です。テーマ2では、細胞に遺伝子を導入し、細胞内のタンパク質に蛍光の目印をつけ光でその色を変えてみたりなど、細胞イメージング技術の一端に触れます。

(受入人数: 1-2名程度、受入期間: 1週間程度、期間については事前にご相談下さい。)

25. 人工細胞・分子ロボットの設計



濱田勉 准教授



本研究室では、脂質分子が自己集合した膜小胞(人工細胞)の形や動きをコントロールする研究に取り組んでいます。人工細胞の形や動きの観察、制御、解析を体験し、分子集合システムや分子ロボットの設計法について学びます。

(受入人数: 1-2名、受入期間: 1週間程度)

26. モータータンパク質を利用した人工筋肉とマイクロデバイス



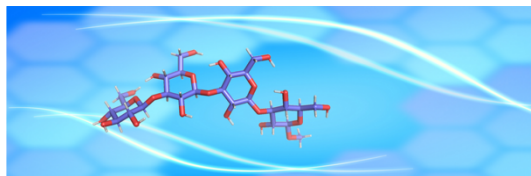
平塚祐一 准教授



生物の「動き」はモータータンパク質とよばれる動くタンパク質によって生じています。当研究室ではこのモータータンパク質を動力源としたマイクロデバイス(微小な機械)を開発しております。インターンシップでは、当研究室で開発されたモータータンパク質で動く人工筋肉を使ったマイクロデバイスの作製を体験して頂きます。

(受入人数: 2名程度、受入期間: 1週間程度)

27. 生体分子のかたちと動き:分子グラフィックスによる解析



山口拓実 准教授



タンパク質や糖質などは、いずれも私たちのからだの中で働く分子です。分子には、それぞれ個性的な“かたち”があり、ユニークな“動き”をします。生体分子のかたちや動きを研究することで、病気の原因解明や、新しい薬の開発などにつながっていきます。分子グラフィックスを利用し、生体分子の構造解析法について学びます。

(受入人数: 2名程度、受入期間: 1週間程度)